

# 板書から始める授業改善

## 学校教育課通信

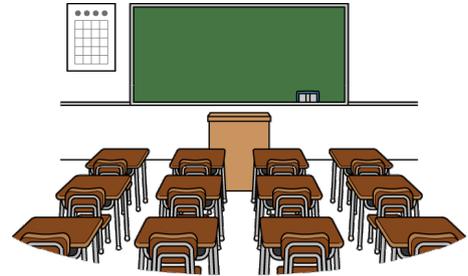
平成31年1月30日(水) 第144号

編集・発行：県南教育事務所 阿部 央

### 授業の大切な要素「板書」

どの授業においても大切な役割を果たしていたのが板書です。板書は、効果的に活用することによって、思考の流れを可視化することができたり、児童生徒の思考力や表現力を育てたり、共に学ぶよさを感じさせたりすることができます。また、授業を通して構成された板書は、自分の授業を振り返る大事な資料となります。今回の学校教育課通信は、学習指導において重要な「板書」から、授業の充実を考えてみたいと思います。

学習内容によって大きく変化する板書ですが、整理してみると次のような要素で構成されます。



### (1) 板書の基本的な構成

◆見やすく、授業の流れがわかり、本時の学習内容がわかる板書を目指しましょう！

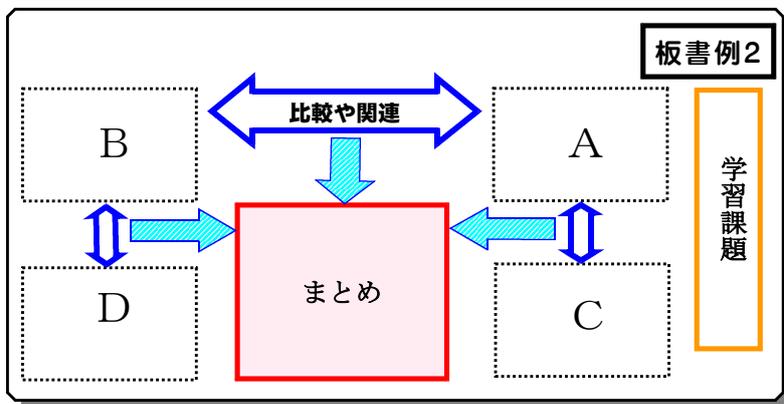
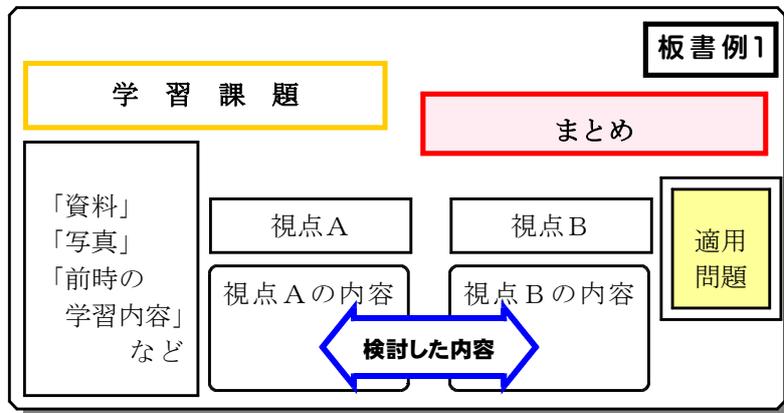
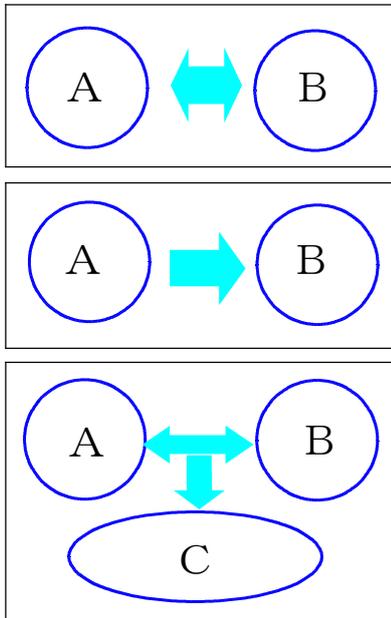
#### ◆板書の役割は

- ・思考の流れの明確化。  
(書く内容の吟味、一授業一板書)
- ・事実や考えの共有化。
- ・学習内容の提示。(要点、集約)
- ・学習内容全体の見通しと振り返り。

#### ◆課題とまとめの整合性を

- ・まとめは学習課題の答えとして。
- ・系統性のある段階的な指導を通して自分でまとめを書けるように。

#### ◆比較・検討、関連、統合の意識を

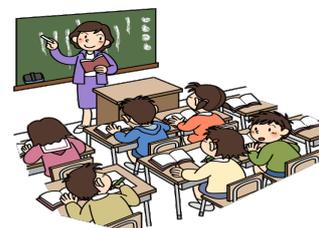


#### ◆板書の工夫

文字の色、文字の大きさ、配置、囲み、線、挿絵や吹き出し、ネームプレート、小黒板、ホワイトボード

学習課題とまとめの明示は本時の学習内容を明確にします。また、矢印や吹き出しを効果的に活用することは、児童生徒の思考の流れに沿った板書を構成するのに有効な手立てとなります。

また、板書は児童生徒のノートづくりと密接に関係しています。板書を考える際には、児童生徒がノートに書き込む内容と関連させて十分検討する必要があります。



## (2) 板書計画を立てることのメリットと留意点

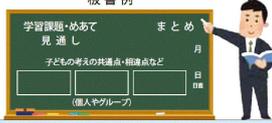
指導技術

板書

板書計画を立てましょう。

- 授業の流れが明確になり、指導のポイントがはっきりします。
- 子どもの思考の流れを想定することにより、発問や活動も見えてきます。
- ノート指導にも生かすことができます。

板書例



板書のポイント	具体的な内容
○ 見やすく、分かりやすい。	<input type="checkbox"/> 文字だけではなく、図、表、写真、案簿などを効果的に活用する。 <input type="checkbox"/> 黒板やICT(電子黒板など)のそれぞれのよさを生かし、効果的に活用する。
○ 授業の流れが分かる。	<input type="checkbox"/> 学習課題→予想→子どもの考え→話し合いの内容→まとめなど、一連の流れが分かるようにする。
○ 学び直しができる。	<input type="checkbox"/> 大切なポイントは、吹き出しなどで強調する。
○ 思考力を育てる。	<input type="checkbox"/> 線画み、矢印などを用いて板書事項を比較、分類、整理するなどして構造的な板書に努める。
○ 子どもと共につくる。	<input type="checkbox"/> 子どもの発言を板書に反映させる。 <input type="checkbox"/> 「おれ」(ネームプレート)を黒板に貼るなど、一人一人の考えや立場を明確にする。

「授業スタンダード」に示されているとおり、板書計画を立てることによって、次のようなメリットがあります。

- ・ 授業の流れが明確になり、指導のポイントがはっきりする。
- ・ 子どもの思考の流れを想定することにより、発問や活動が見えてくる。
- ・ ノート指導にも生かすことができる。
- ・ 学習形態を工夫したり時間配分を考えたりする大きなヒントになる。
- ・ 自分が指導内容を十分に理解しているかどうかの重要な指標になる。 など

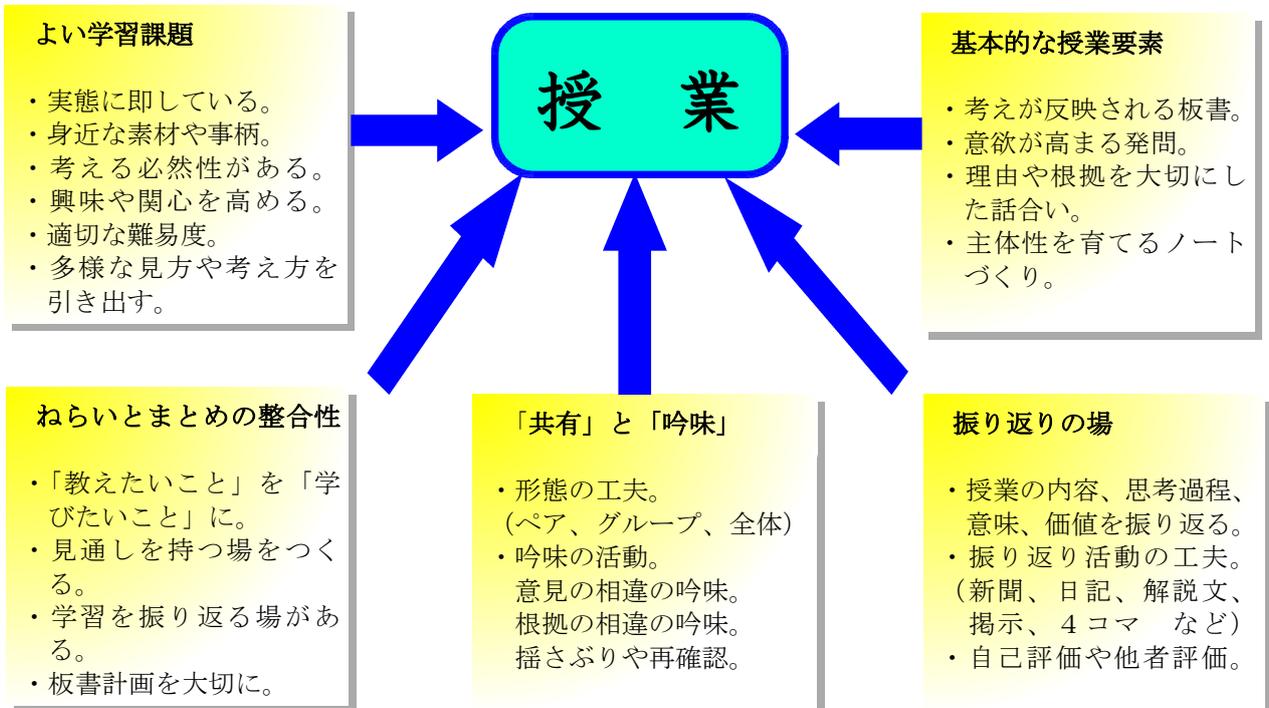
板書計画を立てることによって多くのメリットがありますが、逆に気をつけなければならないこともあります。板書計画にこだわり過ぎると、次のような傾向が見られることもあります。

- ・ 板書の中心となる重要な言葉を引き出そうとして、発問が一問一答になってしまう。
- ・ 板書計画を立てる際に予想した児童生徒の反応だけを優先的に取り上げがちになってしまう。
- ・ 板書を書くことに気を取られて発問のコーディネートがうまくできない。 など

児童生徒の思考の流れに沿って板書を構成することは、学習の深まりに欠かせない大切な要素です。

## (3) 授業の要素と板書

下の図は「授業をつくる16の視点」(福島県授業改善研究会刊)の「2. 授業をつくる」に示された「5つの視点」です。これら5つの視点をそれぞれ見ていくと、どれも板書と深く結びついていることが分かります。



みんなの考えが出され、それらの考えがまとめられる場が黒板であるという意識を、教師と児童生徒が共有すること。その共有によって学び合いが深まり、授業の充実につながっていくと考えます。

